

目の健康

多焦点眼内レンズ手術 自己負担の費用が軽減

白内障は眼の中の水晶体が混濁し、見え方の悪化を来す病気です。手術で濁った水晶体を取り除き、きれいな人工のレンズを眼の中に入れる治療でほとんどの場合改善します。この人工レンズには残念ながら調節力がないため、術後に老眼鏡などで見え方を調整する必要があります。

最近ではレンズが進化し、遠方、近方の2カ所、もしくは3カ所を見やすくする多焦点タイプも普及してきました。多焦点眼内レンズは、眼鏡を使う頻度を減らせるというメリットがありますが、完全に眼鏡が要らなくなるわけではなく、夜間に光のにじみを感じることがあります。多焦点眼内レンズは

健康保険の適応外となつていきます。2020年4月に制度が変わったので注意が必要です。従来は先進医療扱いだったため、先進医療特約などの医療保険に加入していた際は、手術とレンズ代を合わせた全額を保険で賄うことができましたが、2020年4月以降は選定療養となり、先進医療特約を利用した支払いができなくなりました。そのかわり、手術代は健康保険で払われることになり、健康保険の負担分とレンズ代で手術を受けることができますようにになりました。

適応や金額については取り扱っている眼科にお問い合わせください。

2020年3月までの先進医療

多焦点眼内レンズに係る部分

水晶体再建(白内障手術)

多焦点眼内レンズを用いた白内障手術

手術全体が
保険適応外
(全額自己負担)

2020年4月からの選定療養

多焦点眼内レンズに係る部分

水晶体再建(白内障手術)

多焦点眼内レンズを用いた白内障手術

保険適応外
(患者自己負担)

医療保険給付
(保険外併用療養費)

大上 智弘 先生 プロフィール

平成14年筑波大学卒業、同附属病院眼科、虎の門病院眼科・茨城西南医療センター病院眼科科長を経て令和元年宮久保眼科副院長■専門分野／白内障・硝子体・眼瞼手術、日本眼科学会認定専門医、網膜硝子体学会、日本眼科手術学会員他

